

目 次

発刊にあたつて

川上村誌刊行會長 藤原忠彦

凡 例

第一章 考古学による旧石器時代から近世初期の川上村

南牧村矢出川遺跡・中ツ原遺跡の頃の川上

第一節 川上村の考古学 3

一 川上村の考古学の歩み

／川上村の考古学の歩み

二 川上村の遺跡と分布

／川上村の遺跡と分布

第二節 旧石器時代の川上村 12

一 旧石器時代の概要

／旧石器時代の概要

／旧石器時代の川上村

二 川上村の旧石器時代の移り変わり

／三沢遺跡の頃の川上村

／柏垂遺跡の頃の川上村

／馬場平遺跡の頃の川上村

第三節 縄文時代の川上村 23

一 縄文時代の概要

／縄文時代の概要

／縄文時代の川上村

二 川上村の縄文時代の移り変わり

／立石遺跡の頃の川上村

／東原A遺跡の頃の川上村

／御堂窪遺跡の頃の川上村

／三沢遺跡の頃の川上村

／大深山遺跡の頃の川上村

／深山口遺跡の頃の川上村

／縄文時代の終わり

第四節 弥生時代から奈良時代の川上村

一 弥生時代

／弥生時代の概要

／川上村の弥生時代と近隣の様相

二 古墳時代・飛鳥時代・奈良時代

／古墳時代の概要

／飛鳥時代の概要

／奈良時代の概要

／古墳時代から奈良時代の川上村

第五節 平安時代の川上村

一 平安時代の概要

／平安時代の概要

／川上村の平安時代

二 川上村の平安時代の移り変わり

／花の木沢遺跡の頃の川上村

／横尾遺跡の頃の川上村

／大海道遺跡の頃の川上村

／七久保遺跡の頃の川上村

／しだみじゅく遺跡の頃の川上村

／中世から近世初期の川上村

第六節 中近世の概要

88

97

6

／中近世の概要と中近世の川上村
二 中近世の村内遺跡

／大海道遺跡

／金峰山修驗道遺跡

／梓久保金山遺跡

／中世の終わり

第二章 文献伝承等から見た古代から近世初期

第一節 古代：

一 信濃の国名

二 佐久郡と郷名

三 大井庄

四 村に残る平安時代の伝承

／藤原山縁起

／信濃国佐久郡郷村開発記

／信濃国佐久郡川上六騎の事

第二節 中世の川上郷：

一 承久の乱と川上左近

二 金峰山信仰

／山岳信仰と修驗道

／金峰山信仰

100

六 大日堂と諸尊像	／ 黒平村を開発した人々
／ 中宮跡	／ 香坂新田村の開拓
第三節 中世の終わりから近世初期	／ 大日向村都沢金山の開発
一 川上郷と甲斐武田氏	／ 武田氏と平賀源信
／ 武田氏と甲斐武田氏	／ 佐久侵攻と伝馬制
／ 川上入道のこと	／ 秋山村砂金発見の伝承
／ 武田氏と長尾・名目平金山	／ 武田氏の滅亡
／ 織田信長の武田領の仕置と本能寺の変	／ 織田信長の武田領の仕置と本能寺の変
二 織田信長の武田領の仕置と本能寺の変	／ 織田信長の武田領の仕置と本能寺の変
三 徳川家康の甲斐支配	／ 徳川家康の甲斐支配
四 依田氏の佐久支配	／ 依田氏の佐久支配
五 信蕃の佐久統一	／ 信蕃の佐久統一
／ 仙石氏の佐久支配	／ 仙石氏の佐久支配
／ 仙石秀久の小諸入城	／ 仙石秀久の小諸入城
／ 仙石氏と長尾・名目・馬越沢金山	／ 仙石氏と長尾・名目・馬越沢金山
／ 板橋村の成立	／ 板橋村の成立
／ 甲州道普請	／ 甲州道普請
／ 仙石氏の苛政と一郡逃散	／ 仙石氏の苛政と一郡逃散
／ 仙石忠政の百姓還住政策	／ 仙石忠政の百姓還住政策
／ 忠政の大坂の陣と一騎役	／ 忠政の大坂の陣と一騎役

第三章 江戸時代の領主と代官

第一節 徳川忠長領	131
第二節 甲府徳川領	129
第三節 幕府領	127
一 幕府領	

一 幕府領

二 松本藩の御預り所	
三 中之条御役所	

二 松本藩の御預り所

三 中之条御役所

四 石和代官所

五 御影御役所

第四節 代官

一 一代官

二 代官所役人の給料

三 代官所役人の廻村

第四章 江戸時代の検地と租税

第一節 検地

一 寛永の総検地以前

永楽貢目高目録

反取りの開始

寛永十六年の年貢納名寄帳

勘定目録

郡中永楽高辻

佐久郡高書上帳

貢高について

石高について

寛永六年検地の実施

検地帳

検地の方法

永荒れについて

除地について

寛永十三年の検地から明和期まで

安永の新田大検地

宝曆三年御所平文書

検地の実施

文久三年の新田検地

第二節 年貢

寛永六年以前の年貢

元和九年大深山村御成ヶ指紙

年貢の賦課率

寛永六年検地からの年貢の徵収

年貢の徵収

第五章 江戸時代の村のしくみと出来事

第一節 村役人の仕事

二 組頭の役割

三 百姓代の役割

四 名主の仕事

第二節 宗門人別帳と寺請制度………

一 人別宗門改帳

二 本百姓と抱

第三節 五人組と五人組帳………

第四節 村入用夫錢帳………

一 村入用帳

二 村入用の徵収

三 宗門帳入用

四 郡中入用（郡中割）

五 村役人の公用入用

六 村祭と社寺代参入用ほか

七 名主の給料ほか

八 家数人別並牛馬増減書上帳

第五節 村撫………

一 村定書

二 共有・入会林野の取決め

三 博奕の取締り

第六節 村人足………

一 村人足

216

209

199 195

190

第七節 出稼ぎ

一 出稼ぎ

二 出稼ぎでのもめ事

／日雇錢滯出入

第八節 信仰の旅

一 伊勢參宮

二 善光寺参り

三 御嶽山信仰

四 海岸寺の参詣

五 三峰山代参

六 榛名山代参

第九節 村のもめごと

一 秋山村三方櫟木伐出訴状

二 御所平村新七箱訴一件

第六章 江戸時代の村の生活と治安

第一節 家別人別帳

第二節 衣生活と麻の栽培

第三節 養蚕

一 養蚕業のはじまり

246 244 237

231

223

219

二 特産品の栽培と桑園
三 養蚕業と桑園

四 製糸業の発展

五 零細農民のうごき

第六節 貢租としての荏胡麻と油

第五節 鉄炮

一 鉄炮の伝来

二 猿師鉄炮の所持

三 威鉄炮の拝借

四 鉄炮での猟業

第六節 事件

一 大八田村事件と諸入用

二 居倉村の嘉兵衛の遭難

三 宗泉寺の盜難品届

四 浪人体の者の狼藉

五 小鹿野村金兵衛強盗被害

六 悪党始末申上書

七 犯罪人護送の警護人足差出

八 桔梗盜難始末記

九 梓山村の盜難始末書上

十 盜賊差押え

十一 宍番勤番

第二節 稲作

一 稲作

二 水田のはじまり

三 稲粉と種貸

四 幕末村々の新田開発

五 堤と用水路

一 川上蕎麦のいわれ

二 川上蕎麦の移出と値段

三 移出と値段

一 江戸での蕎麦の取引

二 大坂蕎麦店の開業

第七節 兵賦

第七章 江戸時代の農業と林野・鉱山

第一節 農業

一 農業の変遷

二 農耕の実態と農閑稼ぎ

三 麦はいつ頃から作られたか

四 農業の心得

五 百姓の住居と農具

254 252

260

第三節 川上蕎麦

291

280

275

270

三 川上蕎麦の文人墨客の評価

／安井算知の書簡

／本山萩舟の川上霧下そば

／平賀源内の推奨書簡

／東照宮蕎麦注文書簡

四 蕎麦の生産と役割

／蕎麦の播種量と収量

／蕎麦と自然災害

／貯夫食と蕎麦

／地域における蕎麦の利用と役割

／挽抜と石臼

／蕎麦灰・そば殻の販売

／蕎麦料理

／水車の役割

／明治以降蕎麦の生産の変遷

第五節 雜穀としての稗の効用

第六節 馬

七 明治期以降の馬
／馬の改良生産
／馬とくらし
／農耕と運搬

／馬の改良生産

／馬とくらし

／農耕と運搬

／放牧と飼料

／馬市について

／馬の徵發

／馬の病氣

八 馬頭觀世音・民俗にみる馬について

第六節 林野の概要

第七節 御巣鷹山

一 鷹狩の歴史

二 御巣鷹山の所在

三 巢守と巣下し

／巣下しの記録

／御巣鷹山手形

／巣下し入用

／居倉村巣下し入用

／秋山村の巣下し

／原村と居倉村

313 311

329 327

- 一 馬の飼育
- 二 江戸末期の産馬
- 三 毛付けについて
- 四 セリ駒
- 五 御神馬のこと

／秋山村と梓山村

五 鷹匠

第八節 御林

一 御林伐り荒しと過料

二 御林見分役人

三 御林見守役

四 山中領御林

五 御林野火取締と野火消し

第九節 入会林野と百姓稼山

第十節 百姓林

第十一節 山論

一 梓山村と秋山村

二 川端下村と居倉村

三 秋山村と居倉村

四 梓山村・秋山村と居倉村

五 居倉村と大深山村

六 居倉村と原村

七 御所平村と広瀬村

八 御所平村と樋沢村

九 原村と御所平村

十 樋沢村と板橋村

十一 古大滝村と秋山村清右衛門

360 358 352

341

第十二節 植栽

第十三節 金山の問堀

一 江戸時代の金山問堀

二 大深山村鉛山の採掘

三 居倉村・大深山村の鉛山問堀

四 梓山村小袋岩銀山稼ぎ

五 高町鉱山問堀願

六 横築地鉛山問堀願

七 享和・文化期の金山問堀

八 河原善九郎の問堀

第八章 江戸時代の街道と助郷

第一節 佐久甲州街道

一 平沢峠と野辺山原

二 街道九宿と物流

三 佐久甲州街道と川上村々

四 海尻大月橋の掛け替え

／享保十五年の掛け替え

／宝暦十一年の掛け替え

／寛政六年の掛け替え

／文化十二年の掛け替え

／天保九年の掛け替え

395

383 379

五 諸国巡見使の派遣	五 安政の掛け替え
六 大滝村俣野沢金山へ仕送り	六 紀州藩の用材伐り出しへの仕送り
七 秩父側から峠を越えた荷物	七 下駄素材
八 岩茸	八 鳥鶴
九 十文字峠と三国峠の遭難	九 八 秩父郡より大麦の買入れ
十 黒谷沢の変死人	十 文字峠と三国峠の遭難
十一 王滝村の柚頭和助の遭難	十一 築摩郡平田村民右衛門の遭難
十二 江戸幕府の伝馬制と助郷	十二 駿州横砂村只八の遭難
十三 助郷（加助郷）の指定	十三 諏訪郡田部村の三之丞の遭難
十四 宝暦の大助伝馬役御赦免願	十四 日本木原の行倒人
十五 梓山・秋山両村助郷人馬御赦免願	十五 黒谷沢の変死人
第一節 御手山稼ぎの物資の調達と輸送	第一節 峠道の自普請
第二節 中津川鉱山への仕送り	第二節 峠道通行対談議定書
第三節 三峰山代参と飯米の供給	第三節 当才馬の通行
第四節 江戸幕府の伝馬制と助郷	第四節 江戸幕府の伝馬制
第五節 伝馬役御赦免願	第五節 伝馬役御赦免願

- 三 寛政の加助伝馬御赦免願
四 加助御伝馬差替代銀願
五 天保の伝馬役代銀願
六 秋山村・梓山村助郷人足に付嘆願書
- 第六節 通行と加助郷……
一 紀州藩主の通行
／安永七年三月
／紀伊藩主の通行
／買上げ人馬の不参
二 日光御門主の通行
／天明六年八月
／寛政十一年
三 尾張藩主の通行
／文化十二年五月の帰国
／文化十五年の通行
／尾張大納言御遺体と俊恭院の通行
- 四 姫宮方の通行
／楽宮の御下向
／水戸姫君の御上京
／登美宮の御下向
／寿明姫君の御下向
／銳君の御下向

444

第九章 江戸時代の災害と救恤

- 第一節 災害の概要……
第二節 災害と救恤の詳細……
一 寛永・正保期の灾害
二 寛文・延宝・天和期の灾害
三 元禄・宝永・正徳期の灾害救恤
四 享保期の灾害と救恤
五 寛保二年戊の満水の灾害救恤
六 延享期の灾害と救恤
七 寛延・宝曆期の灾害と救恤と棄捐
八 明和・安永期の灾害と救恤
九 天明の浅間山大焼による灾害と救恤

476 473

／和宮の御下向

五 遊行上人の通行
／浮浪の徒追討軍の通行
／日光奉幣使の通行六 文久二年から慶応二年の通行と伝馬勤
／一橋慶喜の上京
／將軍家茂の上洛と御変革による文久三年の通行

／遊行上人の通行

／文久二年から慶応二年の通行と伝馬勤

十 寛政・享和・文化期の災害と救恤

十一 文政期の災害と救恤

十二 天保期の災害と救恤

十三 弘化より慶応の災害と救恤

十四 横沢村西川橋の流失と掛け替え

第三節 郷藏と貯穀

一 郷藏

二 貯穀

第四節 その他

一 火災

二 流行病

三 疱瘡

第十章 江戸時代の戸口

第一節 人口・戸数・馬飼育の変遷

一 人口・戸数

二 馬飼育の変遷

年表

参考資料

597

563

553

546

540

あとがき